

1. 「教育理念・教育目標」「教育方針」「校訓」に基づく実践

本校は私学であり、社会や保護者のニーズに応えるよう不断の努力をすることが、本校発展に不可欠であることを自覚すること。

創立の理念を踏まえ、本校の教育活動の根本をなす「教育理念・教育目標」「教育方針」「校訓」を最重要視し、全教職員が十分理解会得し、日々のあらゆる教育活動を通じて、その精神ならびに経営方針に基づく実践に向けて、全員一丸となって協力し、努力研鑽を重ねながら実現すること。

◇教育理念・教育目標

「心豊かなリーダーの育成」

将来の国際社会に貢献できる有為な人材の育成を教育目標とする。

◇教育方針

個性を尊重し、一人ひとりの可能性を伸ばすとともに、人間教育に重きを置き、他を思い遣る豊かな心を育てる。

小・中・高の12カ年一貫教育を通して、『規律ある進学校』として、「心力」「学力」「体力」のバランスのとれた三位一体の教育を行う。

また「生徒の夢は学校の目標」を合言葉に、夢の実現に向けて努力を重ねる児童を、教職員は学校を挙げて全力で支援する。

◇校訓

「誠実」何事においても誠心誠意をもって取り組む心を大切にする。

「謙虚」素直な心で自分を見つめ、学びの姿勢を大切に、自己の向上に努める。

「努力」文武両道のもと、学問や運動・芸術を通して人格形成に一生懸命に励み、切磋琢磨する。

2. めざす児童像

- 素直で明るく、元気よく挨拶ができる、礼儀正しい児童
- 夢を持ち勉強や運動・文化活動に意欲的に、粘り強く取り組むことができる児童
- 読書に励み思慮深く、思考力があり自分の考えをきちんと発言したり、他の意見にも謙虚に耳を傾けたりすることができる内面的な深みのある児童
- 自分を律し他者への思い遣りがあり、コミュニケーション力や、問題解決能力に優れたリーダーシップの発揮できる児童
- 正義感が強く忍耐力や根気強さがあり、常に感謝の気持ちを忘れない児童

3. 具体的な教育内容

- (1) 心の教育としての「道徳の学習」を重視し、礼儀正しく道徳的実践力があり、人間性豊かな児童を育てる。特に低学年においては、学ぶ姿勢と基本的生活習慣を徹底させ、躰の部分は動作を通して身に付けさせる。

また、名著「7つの習慣」をベースとする「リーダー・イン・ミー」のプログラムを導入し、自己リーダーシップを高める。
- (2) 本校独自の英語評価規準である“Can Do リスト“により、「聞く・話す・読む・書く」の英語総合力を培う。週2～3時間実施するALT（外国人英語講師）とJET（日本人英語講師）との連携学習により、卓越した英語コミュニケーション力を育む。

また、国内英語研修やオーストラリア語学研修（希望者）を実施する。様々な異文化体験を通し、グローバル化社会に求められる主体性、自己決定行動力、共生力等の国際的資質・能力を養う。加えて、自らのアイデンティティを構築する。

第1学年からネイティブ教師と日本人教師による英語の学習を行い、聞くこと話すことのできる英語力を身に付けさせる。学年を追って書くことや読むことを加えていく。
- (3) 全ての教科の基礎であり、思考力の源となる読書指導に力を入れ、独自の「朝の読書」「雨の日読書」「学童保育の読書」を設けると共に、国語の時間割の中に「読書指導」の時間を設け、読書推進の「読書貯金」に取り組む。また、国語の基礎能力となる漢字力（漢字検定の導入）を養成する。図書館との連携により、自ら図書を検索して選んだり、研究レポートを書いたりできるようにする。
- (4) 12年後、東大理系や医学部など難関大学への進学を目標に、基礎学力がきちんと身に付くカリキュラムを編成する。特に算数の計算能力、応用力、思考力を高め、中等部に繋がる学力を養成する。
- (5) 実験や観察等の体験学習を重視した理科教育を行い、自然や環境問題に関心を抱かせ、豊かな感受性、観察力、考察力などが高まるように導く。花壇や学校農園を利用して、野菜や草花を栽培し観察する。また、小動物を飼育し観察する。
- (6) 音楽、図画工作、陶芸、書道、演劇、舞踊などの芸術分野を充実させ、創作活動や芸術鑑賞、演劇鑑賞などを通して豊かな情操や、感性、創造性を育む。
- (7) 4年生から1人1台のタブレット端末を活用した情報通信教育（ICT教育）を行い、情報リテラシーの獲得に努める。
- (8) 12カ年のスパンで、発達段階に合わせたキャリア教育（店舗や公共施設の見学、工場見学、職業体験等）を行い、将来の夢の実現への確かなデザインを描かせる。
- (9) 基礎体力向上を目指した日常運動や学校行事（運動会やチャレンジランニング大会、スポーツ大会）を計画し実施する。
- (10) 特別活動を通して、異学年児童や中・高等学校生徒との積極的な交流活動を行い、人間関係を学び自分の意見発表や集団の意見をまとめる力を養い、将来のリーダーに必要なコミュニケーション能力や、問題解決能力を育てる。また、4年生からクラブ活動、5年生からは委員会活動を導入し、子ども主体の児童会活動を活発に展開する。

4. 平成29年度の学校目標

「平成29年4月、開校4年目、はばたく『えど・とり』年」として位置づけ、『生徒の夢は学校の目標』を目標に、教育課程、学校行事、後援会（保護者会）活動などを計画に沿って、着実かつ大胆に進めていく。本校の特色ある教育内容を、公開授業や公開行事、学校説明会を通して広く発信することにより、児童募集の一層の活性化を図る。

また、本校独自のアフタースクール（講座と学童保育）を発展させ、児童の潜在能力や可能性をより一層引き出し、主体性や社会性を身に付けるよう活動の充実を図る。

(1) 教育課程

学習指導要領に示されている教育課程を踏まえ、科目や授業時数を増やすなどして、私立学校としての教育の特色を打ち出し、学習内容の充実を図る。

(2) 学校行事

児童の自立と協調、リーダーシップ力を養い、運営方法を工夫し、行事内容の充実を図る。

(3) 後援会（保護者会）活動

保護者参画の活動を計画し、児童、保護者、教員が協力し合って、教育活動の充実を図る。

5. 重点目標 ～「心力」「学力」「体力」～

① 「心」を育てる

- ・自ら進んで元気よく挨拶する習慣の徹底
- ・恵まれた教育環境の中での体験学習の充実
- ・学級や学年内の活動、異学年や異学校との交流活動の展開
- ・独自のテキストを使用してのリーダーシップの育成

② 「知性」を育てる

- ・子どもがわかる学習、子どもができる学習の重視
- ・全教科と領域等で基礎的な知識や技能の獲得100%の達成
- ・生涯学び続ける「知的好奇心」の喚起持続

③ 「からだ」を育てる

- ・子どもの発達に合わせた基本的な生活習慣の定着
- ・日常の遊びや運動、スポーツ大会行事を通しての基礎体力の増進
- ・給食を通しての望ましい食習慣の形成

④ 「国際性」を育てる

- ・ネイティブ教師と日本人教師による五感を活用した英語の学習
- ・EDOTORI イメージョン（音楽、体育等）の基本方針の明確化とその実践
- ・隣人から始まる人間関係の構築
- ・国内英語施設や海外提携学校での語学研修や異文化体験の実施

6. 各学年の教育目標

「遊び大好き」「学習大好き」「友達大好き」「先生大好き」「学校大好き」の子を育てる。

◇第1学年「みんななかよし」

- ・元気にあいさつする
- ・人の話をしっかり聞く
- ・自分のことは自分です

◇第2学年「自分や友達を大切にしよう」

- ・あいさつやことばづかいをきちんとする
- ・人の話を聞いて理解する。
- ・友達と力を合わせる

◇第3学年「自分や自分を取り巻く人を大切にしよう」

- ・あいさつや身だしなみをきちんとする
- ・人の話を聞いて自分の話をする。
- ・友達や先生と力を合わせる

◇第4学年「自分や自分を取り巻く人を広げて大切にしよう」

- ・あいさつや身だしなみをきちんとする
- ・人の話を聞くことで互いに理解し合う
- ・友達や先生、家族と力を合わせる

◇第5学年「自分や周囲の人を大切にしよう」

- ・あいさつや身だしなみの手本を示す
- ・人の話を聞くことで互いに理解を深める
- ・友達や周囲の人と力を合わせる

7. 規律ある生活

(1) 時を守る

チャイムに従って行動すること。集合時刻があるときには、トイレを済ませ、5分前には集合場所に着き、心を整えて待つこと。

(2) 場を清める

誰もが快適に過ごせるように、施設をきれいに利用する。掃除はみんなで力を合わせ、心を込めて丁寧に行う。常に身の回りの清潔や整理整頓に心がける。

(3) 礼を正す

朝夕の挨拶は姿勢を正し、相手の目を見て、元気な声で行う。名前を呼ばれたら「ハイ」とはっきり返事をする。席を立ったらイスを戻す。履き物を脱いだら必ず揃える。

8. 規律ある学習

(1) ノートは学習の鏡

教育の原点：「学習は黒板とチョークで勝負する」。板書は原則ノートに書く。

- ・「学習課題」は青色、「学習のまとめ」は赤色で書く。
- ・ノートは提出させて点検する。コメントや評価を入れる。

(2) 時間厳守と挨拶の励行

- ・チャイムと同時に学習を開始する。そして、終了時刻を守る。教科担任制であり、次時に引きずらない。
- ・学習の初めは「起立」と児童が号令をかける。児童・教師ともに「お願いします」と言った後一礼をする。終わりは「起立」「ありがとうございました」一礼で終了する。

(3) 宿題や家庭学習

- ・各教科主任や学年主任を中心として宿題について、共通理解を持って宿題を出す。1日の家庭学習時間は、学年ごとに適切な時間を提示する。
- ・宿題未提出者については、教科担当や担任が把握し、家庭環境等を鑑みて指導する。

9. いじめ「ゼロ」の江戸取小 →HP【いじめ防止基本方針】参照

いじめは一人ひとりの人権にかかわることであり、絶対あってはならない。学校教育の中でいじめがあれば、教師の責任をとらえ、早期発見と即時解決が必要となる。

- ・休憩時間になっても一人教室の片隅にいる児童
- ・元気がなく、笑顔がない児童
- ・学習中、ぼんやりしていて集中力がない児童
- ・机をわずかでも離されている児童
- ・登下校時、カバンやバッグなどを、友達から持たされている児童
- ・口数が少なくなってきた児童

こうした状況の児童を見かけたら、いじめられている現場の一つと考える。話をよく聞き、即時に対応すること。とはいえ、児童から話を聞き出すことは容易ではない。そのためには、日ごろから、「何でも話せる先生」としての信頼を得ておく必要がある。聞き出した情報は整理し、学年部長や生活指導主任等を交え、学年間で共通理解し、管理職に報告する。教師一人で悩まず、小学校全体で解決していくことが大切である。